

中国対日政策の言説空間（2012-2016）

——国際政治機関誌・専門誌を中心に

王 広涛

愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）研究員

要旨：

本報告は2012年以來、中国における対日政策の言説空間を検討する。具体的にいえば、中国における代表的な国際関係機関誌と日本研究専門誌を中心に、公刊論文の内容、類型、頻度を言説分析し、習近平新指導体制の対日政策の変更等を読み取ることは本研究の主な目的である。

2012年は日中両国にとってともに大事な一年であった。日中両国の新指導体制（第二次安倍政権、習近平政権）はいずれもこの年に発足し、「尖閣国有化」をめぐる日中両国の応酬も2012年9月の出来事であった。本報告は以上の事情を念頭に入れつつ、中国における対日政策の「連続」と「断続」を捉えようとするものである。

中国の対外政策（対日政策）を捉えようとする場合に、新聞記事、報道機関、インターネットの報道を利用してそのコンテクストを分析する手法はしばしばみられる。その理由は中国政府のメディアに対する統制と指導にあると思われる。本報告ではあえて上記のマスメディアをやや離れて、学問性を有する学術機関誌と専門雑誌を取り上げて、日本政治外交・対日政策に関わる論文の内容・批判のスタンス・国際機関誌における日本の位置付け等を計量的に分析する。本研究で明確にしたいことが以下の通りである。

第一に、国際研究機関誌・専門誌と中国政府公式政策との距離（機関誌論文の政治的スタンスを時の政策と関連付けて考察する。執筆者の所属・身分・政治的志向の分析）。

第二に、機関誌・専門誌の解析を経て中国対日政策の焦点を絞ること（領土ナショナリズムか、歴史問題批判か、それともその他）。

第三に、機関誌・専門誌論文は実際の対日政策に与えた影響についての分析。本研究は以下の雑誌を利用して分析を行う。

(1) 総合国際関係・国際問題機関誌

世界政治與經濟（中国社会科学院世界經濟與政治研究所、月刊）

外交評論（中国外交学院・中国国际関係学会、双月刊）

国際問題研究（中国国际問題研究院、双月刊）

現代国際関係（中国現代国際関係研究院、月刊）

当代亜太（中国社会院亜太與全球戰略研究院、双月刊）

(2) 日本研究専門機関誌

日本学刊（中国社会科学院日本研究所・中華日本学会 双月刊）

日本研究（遼寧大学日本研究所 季刊）

東北亜論壇（吉林大学東北亜研究院 双月刊）

日本問題研究（河北大学日本研究所 季刊）